

環境サポーター 養成講座開設と それから

特集4

～まちには環境問題について 学習し続ける“しくみ”が 必要だ～

環境カウンセラー
守谷 和久
(四国中央市)



フォーラムを開いて、「見栄えは悪くてもその町らしい計画にすべきで、コンサル丸投げはやめる」、このことは、参加した人たちの共通した確認事項となったはず。平成元年8月26、27日、久万町にて開催された「市町村の振興計画を考えるフォーラム」は、翌平成2年2月25日、内子町の岡田文淑さんが中心となり、そのことを報告書としてまとめられている。少々前置きが長くなったが、PDCAサイクルの最初のP(ポリシー&プラン)の重要性は、何度書いても許されるだろう。実施を規定してしまうのだから…。

“しくみ”と組織づくり

さて、その実施に向けた環境基本計画では、5つのリーディングプロジェクトに絞り込んだ。その中でも一番盛り込まれたかったプロジェクトのひとつは、「グリーンコンシューマー1000人委員会の設置」であった。このことで、市民・行政・事業者の連携を重視した、対立の概念から協業の概念への具体的組織を目指したのである。

ここから、環境サポーター養成講座開設へと繋がっていく訳である。市内に環境問題について学習し続ける“しくみ”が計画され、実施されようとする黎明期であったと思っっている。このことで、行政を巻き込んだ環境問題を論じ、実施で

きる「組織づくり」のスタートが切れるわけである。県内では既に、エコリーダー制度(松山市)、エコスタッフ制度(新居浜市)があり、それなりに成果を挙げていると聞き及んでいた。

組織づくりには数多く参画してきたが、一口で言えば、組織は作る(夢で始まる時期)まではすこく面白い。また、その組織の初期の活動もずいぶんと面白いものである。衆議院議員の小野晋也さんに教えられた言葉に「偉大な仕事は夢で始まり 情熱で持続され 責任感で成就される」と言うのがある。しみじみホントだわーと思う。

環境サポーター養成講座の活動

初年度計画と試行(平成18年度)、2年目実質スタート(平成19年度)、3年目(平成20年度)を終えて、これからが最重要時期(情熱で持続される)に入ると考えている。この最重要時期は、初心(ポリシー)を忘れ、まずいことは人のせいにし、感謝を忘れる。だもんで、それに気をつけようまく進んでゆく。と思うが、寄り道も多かろう。またそれも“よし”である。市民による市民のための活動は、あたかも酒を造るようにゆつくり、また、必要なときは急いで丁寧な対応で麴を働かしてゆく。このあたりを楽しみながら、やっていきたいと考えている。組織論や活動論を方言で語り合いな

市民参画による ビジョンと基本計画策定

平成18年、「四国中央市地域省エネルギービジョン」、平成19年、「四国中央市環境基本計画」が、それぞれ市民参加の市民策定委員会などによって策定された。多くの自治体では、その筋のコンサルタントに丸投げする例をよく見かける。基本計画などはどうあるべきか」を問う

がら、何か生まれそうな予感する仲間が増えていてる。

この講座のアドバイザーとして、運営について大切だと考えたことが3つある。

環境問題が

テーマの活動であるが、生活感を重視して身近な問題から幅広く、かつ楽しみの多いカリキュラムとすること。(楽しみの企画)

参加者の多様な希望や、やりたいことを良く聞くこと(参加者&主催者とも)をモットーとすること。できることとできないことの見極め。(自発性の尊重)

皆が褒めあつて、できるだけ結果を出し充実感の持続を図る。(持続性の配慮)

これまでにチャレンジした活動を(共催・協賛・応援含む)記載しておきます。キャンドルナイトコンサート、エコ検定受験、ゴミ追っかけツアー、太陽光発電設置場所見



太陽光発電見学



キャンドルナイトコンサート



水辺の動物観察会

学、エコイベント見学会、ISOの学習、豆腐作り実習、川の生物と水質調査、ビーチクリーン&ピクニック、マイ箸運動展開、参加者のそれぞれの活動紹介など。

これからの活動

環境問題の組織・活動の在りようについては、まったく難儀なことが多い。特に、その広がりについては、あきれられるほど広範囲に及ぶ。3R・ゴミ問題・エネルギー・温暖化・自然(山川海)等、「地球的規模で考えて、地域的レベルで行動する」という言葉があるように、範囲を限定しないと実りある話にならない。

近い将来、石油を使わない時代が確実に来ると思われる。そう考えると、少し違った観点からのアプローチが必要になるかもしれない。そのためにも、それぞれ



ビーチクリーン・ピクニック
主催チームマイナス17%実行委員会

れのまちが学び続ける「しくみ」を持ちえるかどうか、そのまちの将来を変えたい。いつても過言ではないだろう。環境問題の解決策は、人びとのライフスタイルのチェンジそのものであるのだから。これから、環境サポーター(四国中央市)発の情報が皆さんの元へどんどん届いていくことと思います。ご期待ください。

※写真は四国中央市環境政策係の中川さんからの提供です。